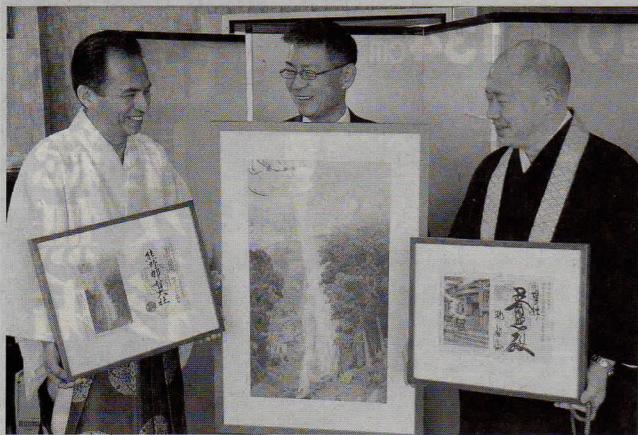


2017年(平成29年)4月15日(土曜日)

悠久の歴史感じる朱印状



熊野那智大社の創建1700年と、青岸渡寺が第一番札所の日本最古の巡礼路「西国三十三所」の草創1300年を記念し、地元・那智勝浦町の那智勝浦ロータリークラブ(後誠介会長)は、参拝者に授与してもらおうと、両社寺に細密鉛筆画を配した記念の朱印状を奉納した。

大社には、画家篠田教夫さんが制作した「那智御瀧」に滝を詠んだ高浜虚子の句を添えたもの、寺には画家諏訪敦さんが描

後会長(中央)から奉納を受けた朱印状を手談笑する男成宮司(左)と高木副住職(那智勝浦町で)

那智勝浦RC 熊野那智大社、青岸渡寺に奉納

いた「本堂」と第一番で詠歌を記し、1300年の特別印が押されたものを、それぞれ今月上旬に奉納した。

男成洋三宮司は「朱印を手には日本人の精神文化の大きな柱である熊野信仰の素晴らしさを感じてほしい」、高木亮英副住職も「鉛筆画の緻密さには驚嘆した」と感謝。後会長は「熊野の霊場を持つ悠久の歴史と奥深い文化は再評価されている。朱印状がその魅力をさらに広めることにつながる」と話していた。

朱印状は各1枚2000円。大社では15日からナンバーがふられた1700枚を限定で、寺では2000枚が参拝者に授与される。